校園名：奈良女子大学附属中等教育学校

所在地：〒630-8305　奈良県奈良市東紀寺町1-60-1 電話番号：0742-26-2571

記載日：2016年5月17日　　記載者：吉田　隆　　記載者役職：副校長

校風、特色について：

本校は、「自由・自主・自立」を校是とし、生徒が主体的に活動する学校です。1911（明治44）年の奈良女子高等師範学校附属高等女学校創設を始まりとし、2010（H21）年に創立百周年記念事業を行いました。

1973（S48）年から中高6年一貫教育に踏み切り、2000（H12）年から中等教育学校となりました。1989（H元）年に文部省の研究開発学校の指定を受けて以来、途切れることなく現在まで様々な研究開発に取り組んできました。現在は、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）3期目の指定を受けて、奈良女子大学の指導の下、新たな理数教育の開発に取り組んでいます。

卒業生の活躍状況について：

[芸術分野]　坂口紀代美（彫刻家・S43年卒）、鵜山仁（文学座演出家・S46年卒）、松村武（演出家・H元年卒）、八嶋智人（役者・H元年卒）、坂本龍右（リュート奏者・H14年卒）

[学術分野]　川北稔（大阪大学名誉教授・S34年卒）、松本紘（理化学研究所理事長・S36年卒）、吉川潔（京都大学名誉教授・S37年卒）、佐伯啓思（京都大学名誉教授・S43年卒）、中室牧子（慶應義塾大学准教授・H6年卒）

[政界・官界]　森本哲夫（元郵政省事務次官・S29年卒）、竹内行夫（元外務省事務次官・S37年卒）、荒井正吾（奈良県知事・S38年卒）、岡本全勝（復興庁事務次官・S48年卒）、辰巳昌良（防衛省審議官・S54年卒）、北村博文（北海道警本部長・S56年卒）、片山啓（原子力規制委員会理事・S56年卒）

[宗教界・文学界]　森本公誠（東大寺長老・S28年卒）、橋本聖円（東大寺長老・S29年卒）・森見登美彦（小説家・H9年卒）

魅力ある、特色ある取組事例1

[スーパーサイエンスハイスクール（SSH）の取組]

第Ⅰ期SSH（H17～21年度指定）

「自然科学リテラシーの育成」

成果：自己学習力と自然科学リテラシーを備えた生徒の育成。スーパーな生徒の育成。

H19年度SSH全国生徒研究発表会において、文部科学大臣奨励賞を受賞。H21年JSEC2009において、グランドアワード日本代表・世界大会（ISEF）3位入賞。

第Ⅱ期SSH（H22～26年度指定）

「リベラルアーツの涵養」

成果：ESDの視点や「観」を持ち分析的かつ深く思索する生徒の育成。海外交流プログラム（人材育成重点枠ScAN）の充実。

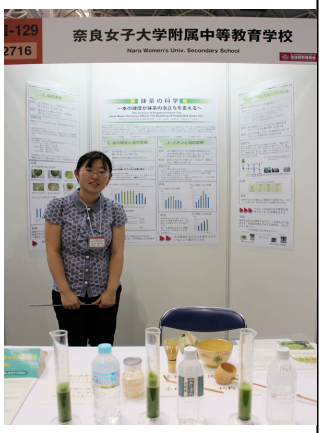
H26年度SSH生徒研究発表会において、科学技術振興機構理事長賞を受賞。H26年JSEC2014において、文部科学大臣賞を受賞し、日本代表としてISEFに出場。

第Ⅲ期SSH（H27～31年度指定）

「『共創力』を備えた科学技術イノベーターの育成」

期待される成果：多分野融合研究の遂行能力を備え、適切な科学的態度と知識に立脚した科学技術イノベーターの育成。

H27年度SSH生徒研究発表会において、科学技術振興機構理事長賞を受賞。H28年日本物理学会第12回Jr．セッションにおいて、最優秀賞を受賞。



H28年度より、JST主催の「さくらサイエンスプラン」による国際交流事業を実施します。参加国は、台湾、韓国、ベトナム、ウズベキスタン、インドネシア、本校の6カ国となります。

※本校SSHの取組は、奈良県内だけなく、全国の学校から注目され、多くの学校訪問を受けています。さらに、日本だけでなく、海外からの学校からも招待され、香港科学技術大学主催の「Intercity Math & Science Summer Camp for Talented Students 2014」に参加したり、タイ国主催の「The Thailand-Japan Student Science Fair 2015」に参加したりしています。ほかにも韓国サイエンスキャンプに毎年招待されて参加しています。

魅力ある、特色ある取組事例2

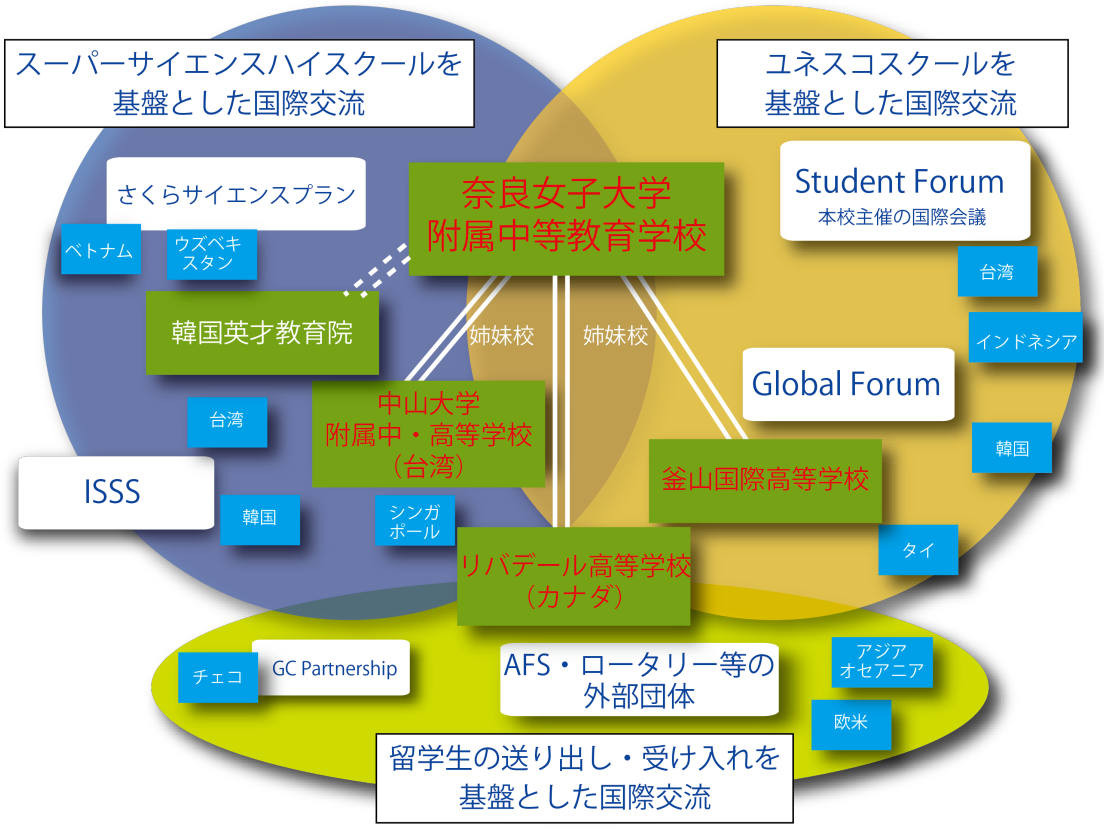
［国際交流事業の取組］

H9年度　**グローバルクラスルーム（GC）**に参加

GCは、イギリス、スウェーデン、チェコ、ドイツ、南アフリカ、日本（本校）の6カ国の高校生が世界的な課題（民主主義、経済格差など）をテーマに会議を開くものです。毎年、各国を回る形で実施され、H12年と18年に本校で開催しました。GCへの参加をきっかけにH11年度より総合学習「世界学」をカリキュラムに取り入れ、世界経済の南北問題や環境問題等に取り組んで来ました。

H18年にユネスコスクールに加盟しました。H19年にはこれまでの国際理解教育の取組が評価され、国際教育交流馬場財団より「馬場賞」を受賞しました。H22年度より「YES for ESD」（フィリピンを中心としたユネスコスクールの高校生が集う国際会議）に参加してきました。H23年度には、釜山国際高校主催の「Global Forum」に参加。さらに、H28年度より、「Student Forum」（アジアの高校生が集う国際会議）を本校が主催することになります。

奈良女子大学附属中等教育学校　国際交流の枠組み



附属学校としての存在意義

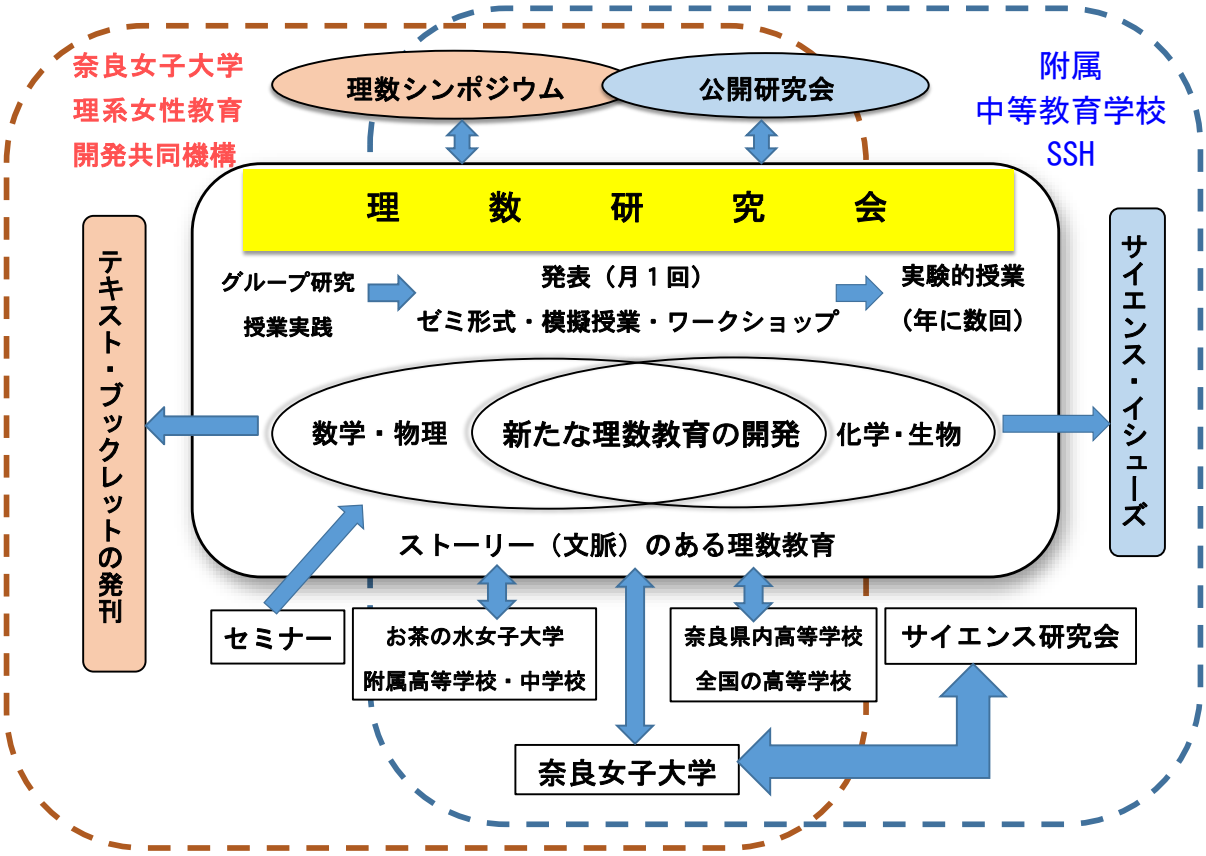
◆中高一貫教育カリキュラムの開発

S48年には、現在の「中等教育学校」のモデルをなす「中高六年一貫教育」をスタートしました。H元年に研究開発学校の指定を受けて、中等教育にふさわしい豊かな教育課程を編成し提起してきました。その実践からは、総合学習「奈良学」「環境学」「世界学」「生活科学」となって結実しました。今後も中高一貫教育校の先頭ランナーとしてその使命を果たします。

◆理数教育の開発

奈良女子大学と本校が中心となって、魅力ある新たな理数教育の研究開発に取り組み、国の先導的研究開発学校としての使命を果たします。

奈良女子大学との共同研究プロジェクト



◆高大接続カリキュラムの開発

H14年よりアカデミックガイダンスを創設し、大学教員が学問のおもしろさを伝えるプログラムとして、本校生には学習・学問への動機づけと位置づけるとともに、大学教員にとってはファカルティデベロップメントの場として機能しています。

さらに中等教育後期と高等教育前期をつなぐ教養教育カリキュラムの開発を進めています。今後、高度な専門教育に基づく、教科内容についての高い専門性をもつ中等教育教員の養成を目指して、大学と附属が連携して取り組みます。